

# マッチコミッショナー対応事例集

熊本県サッカー協会 規律・フェアプレー委員会

## ① 会場到着時刻

- Jリーグ・・・・・・・・・・150分前（メンバー表提出時刻）
- JFL・・・・・・・・・・120分前（メンバー表提出時刻）
- 九州リーグ・・・・・・・・・・80分前（メンバー表提出時刻）
- Qリーグ・・・・・・・・・・80分前（メンバー表提出時刻）
- プレミアリーグ・・・・・・80分前（メンバー表提出時刻）？
- プリンスリーグ・・・・・・80分前（メンバー表提出時刻）



## ② メンバー表確認（マッチコーディネーションミーティング）

◎リーグによってはメンバー表が複数枚出てくることがある。こんな時は、エントリー選手の○印にずれがないかなど、日の光に透かして見るとよい

◎選手・スタッフのエントリー数は、リーグ（大会）規定・要項に合っているか確認

- ・ GK・DF・MF・FW の記述は間違っていないか
- ・ GK は、正、サブ2名のエントリーがあるか

正 GK のみの場合は、緊急時誰が GK になるのか、サブの GK ユニフォームはあるかを確認



- ・ サブの GK ユニフォームがない場合、まずは貼番で対応するように勧める。それが不可能な場合は、正 GK のユニフォームで対応していいかどうか、審判団・相手チームに確認する。（上位リーグでは、このようなことは通用しない。）
- ・ 高校チームでは、たまに女子マネージャーなどがベンチに入っていることがある。入るのであれば、スタッフとしてエントリーシートに記述するよう勧める
- ・ すべてのチェックが済んだ後署名を行なう（できれば原本と分かるように青で）
- ・ 飲水タイム・クーリングブレイクの実施については、通常 WBGT の値によって判断する。コロナ禍での対応として基準以下でも飲水タイム等を求められたときは、審判団・相手チームの同意を得た上で決定する

**※MC の重要な責務の1つとして、「審判を守る」がある。ゲームにおける質問等は、直接 MC に伝えるよう確認する**

◎ピッチ内練習で、エントリー済みの選手が怪我をした

- ・ 先発の選手が出場不可であれば、サブの選手との交代ができる。怪我をした選手が、サブに回ることはできない

- ・怪我をした選手が GK であれば、サブとして残ることができる。九州リーグ・Qリーグとも選手の補充はできない

### ③ フィールドインスペクション（施設設備等の確認を含む）

#### ◎運営本部等の確認

- ・特に今は、感染症対策として、室内の換気の状態、手指消毒薬等の設置状況、運営本部・選手ベンチ等の座席間隔を確認する

#### ◎看板を設置するようなゲームでの確認事項

- ・ウェイト等でしっかり固定されているか、タッチライン等から、5m 以上離れているか確認する

#### ◎九州大会等のゲームでは、協会旗などが掲揚されているか確認

#### ◎ゴールネット等の確認

- ・ゴールネットに抜け・破れ等がないか審判団と確認する
- ・たまに、ゴールの前面にネットが巻き付いてあることもあるので注意する

#### ◎コーナーフラッグ金具の確認

- ・たまに、金具の平たい部分がピッチの内側を向いていることがある

#### ◎危険物、制限地域等の確認

- ・カメラマン等の侵入可能エリア等がきちんと示されているか確認する



#### ◎ベンチ内の椅子の数を確認

- ・椅子の数が、（控え選手の数＋役員（チームスタッフ）の数）になっているか確認する
- ・たまにスタッフが、自前の椅子を持ち込もうとすることがある。控え選手・チームスタッフの数に合わせて、運営担当が椅子を準備しているので、そちらを使うようお願いする



### ④ ゲーム中の様々な事象

#### ◎ベンチに音楽再生機器を持ち込み、音楽を流している

- ・電子通信機器の利用は、競技者の安全安心・快適さに直接関係、戦術的もしくはコーチングの目的であれば、利用が可能。音楽再生機器は、電子通信機器ではないので使用できない

#### ◎ベンチから撮影機器等を使い、写真を撮ったり映像をとったりしている



・これも電子通信機器ではないため、使用できない

◎エントリーをしていないマネージャー等が、ベンチに入っている

・エントリー済のスタッフ以外はベンチに入らないように注意する

◎マスクをしていない関係者がいる

・テクニカルエリアで指示をしているスタッフ・アップをしている控え選手以外は、マスクをするようお願いする（最近、多少緩和される傾向にある）

◎ゲーム中、風が強くなってきた

・選手・観客等の安全を考え、運営担当に依頼し、テント・看板等を撤去してもらう

◎飲水用のボトルケースがタッチライン・ゴールラインのそばに置いてある

・感染症対策の特例である。各ラインから2m離すようお願いする（特にアシスタント側）

◎ゲーム中選手が、2m離れたボトルケースのところまで主審の許可を得ずにピッチを離れた

・感染症対策の特例として、無許可出にはならない

◎飲水タイムに、作戦ボード等の使用があった

・飲水タイムはあくまでも飲水のための時間。MC 報告書に状況を記載する

◎ゲーム中、ソックスと異色のテーピングをした選手がいた

・九州リーグでは、ソックスと同色のテープを使うよう伝えてある

・他のリーグ、下位大会等では緩和されているゲームもある

・ゲーム終了後、ソックスと同色のテープを使うようチームスタッフにお願いする

◎ゲーム中、落雷の予兆があった

・通常中断の最初の判断は主審。主審が気付かないような場合は運営担当・MC 等が声掛けをする

・選手・観客等は、テントではなく屋根の下に避難させる

・ゲーム再開・中止については、主審・運営担当・MC で協議するとともに、主催者に連絡し決定する（日程・会場等の都合でゲームを消化しなければならない場合もある。言うまでもなく、安全の確保が第1である）

◎ゲーム中、地震があった

・雷とは違い、建物等から離れた広い場所に避難させる

◎規定回数の交代終了後も控え選手がアップエリアにいる

・第4の審判員や運営担当を通して、ベンチに戻らせる

◎ゲーム中、主審が懲戒罰対象者を間違えてカードを提示した



- ・ゲーム再開前であれば、第4の審判員等を通じて、間違いを指摘する（MCが直接伝えることは控える）。下位リーグ等では、MCが直接伝えても…
- ・ゲーム終了後間違いの指摘があった場合は、審判員等に確認したうえ、緊急報告書を作成する
- ・公式記録へは、主審が行なった判定をそのまま記載する

◎ゲーム中、審判員が確認できなかった「悪質な行為」があった

- ・競合いの中で相手選手を蹴る、交代の際、人に向けてペットボトル等を蹴る・投げつける等の行為があった場合、映像があれば確認を行う。確認ができた場合は、該当選手・役員等に事情聴取を行い緊急報告書を作成する
- ・確認ができなかった場合は、該当チーム役員等と話をする

◎ゲーム中チームによる違反行為があった

- ・審判員を取り囲む、執拗な抗議を繰り返すなどの行為が確認できた場合、該当者の事情聴取を行い緊急報告書を作成する

## ⑤ ゲーム後の様々な事象

◎判定に対する話し合いの申し出があった

- ・MCが間に入り、審判と直接話をさせない。MCが審判から話を聞き、質問をしてきたチームに伝える。アセッサーがいる場合は、アセッサーに説明してもらう。チームを納得させることが目的ではないので、話を伝えた後は、報告書を上げてもらうよう伝える

◎ゲーム中一発レッドで退場者が出た

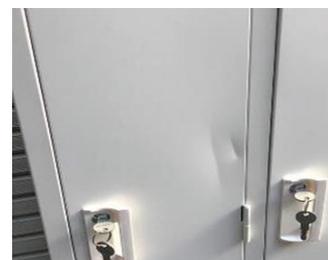
- ・事情聴取の前に主審に確認をしておく。落ち着いた雰囲気の中で、本人から事情聴取を行う。（監督やコーチなど1名程度が同席することは可）。いつ・どこで・誰が・何を・どうしたかを本人に確認する。（判定に対する否定的な考えもそのまま聞く）



聴取の結果は、緊急報告書に記載する

◎ゲーム中およびゲーム前後にスタジアム内の器物を損壊した

- ・該当者が特定できる場合は、事情聴取を行い、緊急報告書を作成する
- ・該当者が特定できない場合は、証拠になる写真等を残し、報告書に記載する
- ・ホーム運営担当者からも報告を上げてもらう



◎ゲーム中およびゲーム前後に差別的な行為があった

- ・差別的行為を行なった者がチーム関係者である場合は事情聴取を行い、緊急報告書を作成する
- ・該当者が保護者・サポーター等である場合は、ホーム運営担当者の中に入ってもらい事情聴取を行い、緊急報告書を作成する